

# 新聞印刷の外部データ入稿資料

09年6月 毎日新聞大阪センター

## 【原稿の基本規定】

原則としてイラストレーター（Adobe Illustrator：Ver.8～10、CS、CS2、CS3）で作成した紙面（ページまたは見開き）のEPS形式ファイルをお願いします（CS4には未対応です）。

入稿データには、必ずアウトライン設定をお願いします。

インデザイン（Adobe InDesign）や、PDF形式ファイルの入稿についてもご相談下さい。

## 【入稿の方法】

オンライン（FTP入稿※）もしくはメディア（USBメモリ、CD-R、DVD-R、MOなど）。

※当社サーバに御社のフォルダを設け、そこにドロップすることで送信できます。

## 【原稿サイズ】

原稿サイズの拡大縮小は、当社では原則として行いません。

原稿寸法が、そのまま刷寸となります（縮率のかかる組寸に慣れた方は要注意）。

最大原稿サイズは下表の通り。この範囲内で作成して下さい。

ブランケット判	最大 縦519mm ×横383.5mm
ブランケット2W(見開き)	最大 縦519mm ×横790.5mm
タブロイド判	最大 縦389mm ×横256mm
タブロイド2W(見開き)	最大 縦389mm ×横519mm

## 【時間】

原稿に問題がなければ、約30分で製版できますが、製版前には出力されたプルーフ（製版時の念校）で原稿の最終確認をすることが望ましいと思われます。

## 【解像度】

出力解像度 909dpi で製版します。

## 【写真原稿の入力解像度】

新聞印刷では、写真は100線前後の網点処理となります。

紙面で使用する画像原稿の入力解像度は、以下をメドとして下さい（原寸で）

モノクロ写真	200dpi
カラー写真	240～300dpi
線画	1200dpi

なお、写真については、新聞印刷では予想以上に暗い色調になるので、以下の【参考1】【参考2】の要領で処理して下さい。

## 新聞印刷でカラー写真を美しくするための設定

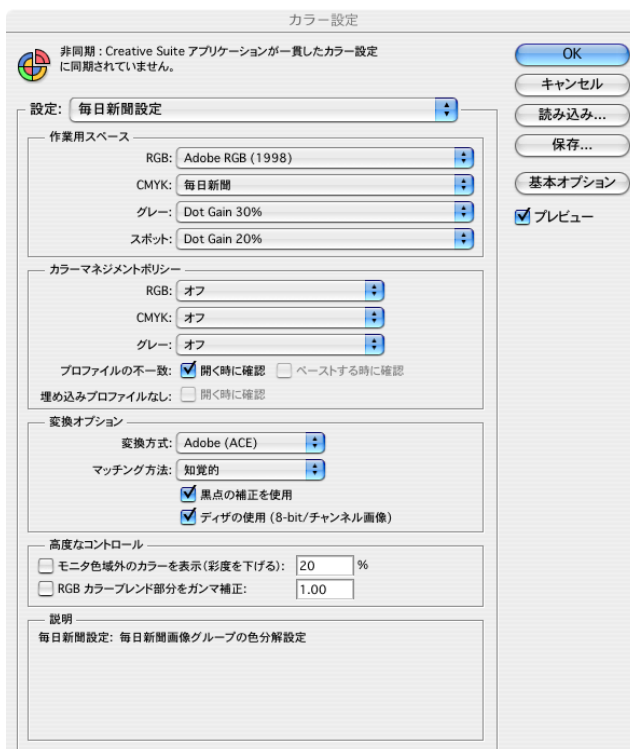
新聞用紙はインクの吸収などの特性がコート紙と異なっており、一般印刷物用に最適化した写真では暗く、冴えない色調（カラーの場合）になります。これを回避し、新聞用紙なりに明るく美しい写真とするため、フォトショップ（Photoshop）を使う上でのポイントがいくつかあります。その前提として、新聞向きのカラー設定を用意しましょう。

### 【カラー設定】

#### 「毎日新聞設定」をつくる

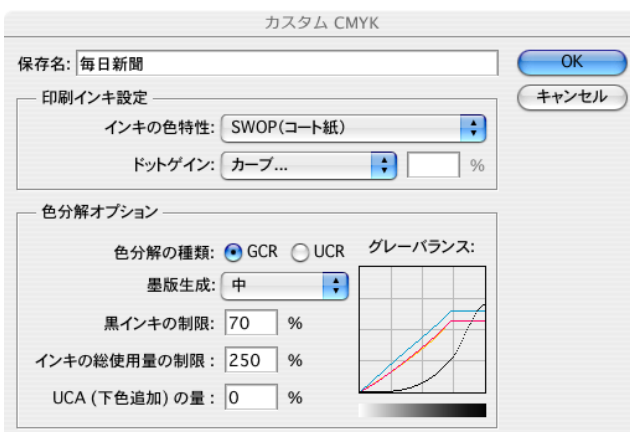
- ① フォトショップを開いて
- ② [編集] メニューから [カラー設定] を選択。
- ③ 「カラー設定」パネルが開きます。

(画面①)



ここで [作業用スペース] の中の [CMYK] の選択ボタン (▲▼) をクリックし、[カスタム CMYK...] を選択。

(画面②)



- ④ 「カスタム CMYK」パネルが開くので、[保存名] の欄に「毎日新聞設定」と入力。
- ⑤ 下段の [色分解オプション] の値を以下の数値に設定します。

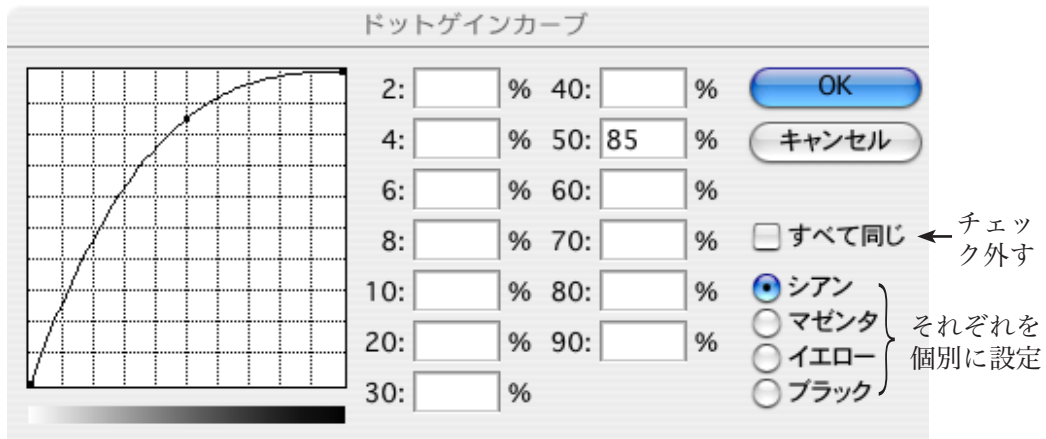
[黒インクの制限] :70%

[インクの総使用量の制限] :250%

なお、他の項目—— [色分解の種類] = GCR、[墨版生成] = 中、[UCA (下色追加) の量] = 0%——は初期設定のまま。

⑤中段 [印刷インキ設定] に戻る。[インキの色特性] = SWOP (コート紙) は初期設定のまま。[ドットゲイン] の選択ボタン (▲▼) をクリックし [カーブ...] を選択します。

⑥ [ドットゲインカーブ] パネルが表示される。(画面③)



右中ほどの [すべて同じ] のチェックを外した後、その下にある [シアン] のボタンをクリックし、[50:] の横の文字ボックスに「85」(%) を半角で入力。ここに入力した数値で、左のグラフのカーブが決まります。

⑦同じパネルで、[マゼンタ] のボタンをクリックし、[50:] の横の文字ボックスに今度は「80」(%) を半角入力。

⑧同様に、[イエロー] [ブラック] にも「80」を入力し、最後は OK で完了。(つまり、C は 85%、M・Y・K は 80% を設定したことになります)

⑨「カラー設定」パネルに戻るので

[カラーマネジメントポリシー] の中で [RGB] [CMYK] [グレー] の各項目で選択ボタン (▲▼) をクリックし、すべて「オフ」に。

他の項目はそのままよい。

⑩パネル右側の [保存] ボタンをクリック。

「保存」パネルが開くので、[ファイル名] のボックスに「毎日新聞設定」(拡張子は「.csf」) と入力して [保存] ボタンをクリック。

以上で、「毎日新聞設定」という名のカラー設定が用意できました。

今後、新聞用の写真補正を行う場合は、カラー設定で「毎日新聞設定」を選んでおきましょう。

## 画像補正処理について

以下は、毎日新聞大阪本社画像グループが行っている画像処理（新聞印刷を対象にした処理）手順です（2006.09.01 現在）。当社 MOC の編集組版グループも、これを参考に作業しています。

ただし、その前提として【参考 1】「新聞印刷でカラー写真を美しくするための設定」に基づいて、御社のフォトショップ（Adobe Photoshop）に「毎日新聞設定」を用意しておいて下さい。

### 【処理手順】（画像処理は RGB で行う）

#### ①色の校正

- ・フォトショップメニューバーの [ビュー] をクリックし [色の校正] を選択します。[色の校正] を選択することにより画面が印刷近似色で表示され、表示画像が暗くなります（輝度表示から濃度表示に変わったと考えるとよい）。表示画像が濁った状態で各処理を開始します。

#### ②トリミング

- ・ツールボックスから [切り抜きツール] を選択。解像度 300dpi で掲載サイズを入力しトリミングします。最初に掲載サイズでトリミングするとアンシャープ処理のエッジ幅がある程度固定できます。また、余分な領域がカットされ、レベル補正処理が適正に行えます。

#### ③レベル補正

- ・メニューバーの [イメージ] をクリックし [色調補正] から [レベル補正] を選択。ハイライト設定（レベル 255、網点濃度 0%）、シャドウ設定（レベル 0、網点濃度 100%）、値を決めます。レベル設定は画像全体を見て、ハイライト側のどの濃度まで網点を残すか、シャドウ側の黒をベタとしてどの濃度までつぶすかを考えて補正します。人物主体の画像は顔が明るくなるように補正を行います。

#### ④トーンカーブ（必要に応じて使用）

- ・メニューバーの [イメージ] をクリックし色調補正から [トーンカーブ] を選択。レベル補正後、シャドウ側が正常でハイライト側から中間調にかけて明るく階調が不足している場合、ハイライト側のポイントをドラッグして階調を整えます。逆に、ハイライト側が正常で中間調からシャドウ側にかけて暗く濃度域が高い場合、シャドウ側のポイントをドラッグし階調を明るく整えます。

#### ⑤明るさ・コントラスト

- ・メニューバーの [イメージ] をクリックし [色調補正] から [明るさ・コントラスト] を選択。コントラストの値を上げると、ハイライト側は網点濃度 0%の面

積が増え、シャドウ側は網点濃度 100%の面積が増えて、ハイライト・シャドウが強調されます。

#### ⑥カラーバランス

- ・メニューバーの [イメージ] をクリックし [色調補正] から [カラーバランス] を選択する。色かぶりなどで画像のカラーバランスが崩れている場合は、バランスを調整します。カラーレベル補正時は、色変化の度合いが激しいので調整は慎重に。

#### ⑦特定色域の選択

- ・メニューバーの [イメージ] をクリックし [色調補正] から [特定色域の選択] を選択。当コマンドで「色かぶり、色濁り」等を取り、鮮やかさを強調します。

例えば

＊顔の色濁りを取る場合

レッド系とイエロー系を使用して濁りを取ります（例えばレッド系のシアン量を減らすとマゼンタが目立ってきます）

＊海、空の色を鮮やかにするには

シアン系とブルー系のイエローを減量。

＊植物の緑を鮮やかな色にするには

イエロー系、グリーン系のマゼンタを減量（例えば山を新緑にする場合はマゼンタとシアンを減量しイエローを増量します）

#### ⑧ CMYK 変換

- ・印刷は、最終的に CMYK のインキで行うので、RGB モードから CMYK モードに変換します。

#### ⑨アンシャープマスク

- ・メニューバーのフィルタをクリックしシャープから「アンシャープ」を選択。

量 : 画像を見ながら度合いを調整します。

半径 : 10pixel ~ 20pixel

(タブロイド判で使用する場合はこの範囲内が望ましい)

しきい値 : 1 ~ 10 以内 (値を大きくするとエッジの効きが弱い)

#### ⑩保存

注) 色補正時は情報で各色の濃度測定を行いましょう。